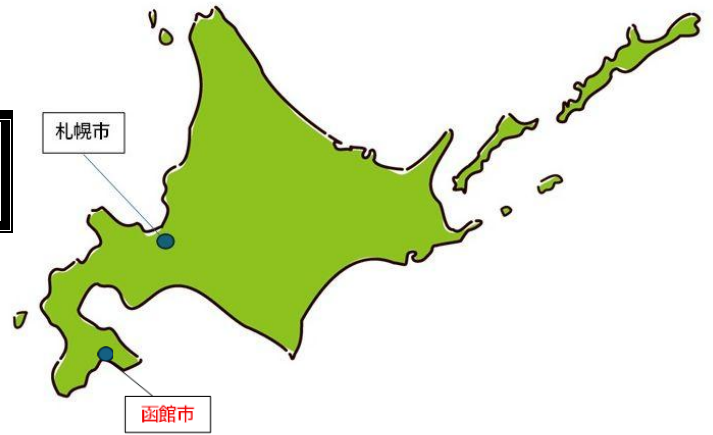


## 終わりになき図書館ジャーニー vol. 30



### 函館巡回記 (1/2)

#### ～平成の大合併当時と現在の読書環境～

今回は2回に分けて書きます。

函館市中央図書館に行かれた方はたくさんいると思います。五稜郭公園のすぐ隣。桜の季節になると図書館2階窓からの景色は見事です。

函館駅から市電五稜郭駅下車徒歩 15 分ほど。バスで中央警察署前下車だと 7 分ぐらいでしょうか。本数は少ないですが図書館前に停車するバスもあります。

図書館へは空港、JR 函館駅・新函館北斗駅・五稜郭駅などから向かう手段はいろいろありますが、今回私は函館駅から市電に乗り五稜郭で下車して 15 分歩きました。何度も訪問しているのに必ず道を間違えます。きっと 10 分で歩けるとと思います。

中央図書館前にもバス停があるのですが、本数がとても少ないので、気軽に乗れる市電に。でも旅行者が多く市電は積み残しがあるので気をつけてください。

ちなみに中央図書館の駐車場は 200 台ぐらい駐車できます。

函館市は人口 25 万ほど。札幌、旭川に次いで3番目に人口の多い町です。俳優の大泉洋のお兄さんが市長なのは有名です。

『北海道の図書館員が薦めるブックガイド』で当館の紹介をしているので、詳細はこちらをご覧ください。

今回書架を見て1つ面白いコーナーを発見しました。展示がそのまま常設になったようです。シニアコーナー！

かなり目立つ場所に設置していました。閉架含めておよそ 66 万冊を所蔵し館内がとても広いので、高齢の方が本を探すのが大変という意向を考え、該当しそうな本を図書館員がセレクトしたコーナーです。YA(ヤングアダルト)コーナーのシニア版と思えば良いかと。並んでいる本のキーワードをチェックしてみると、老後、自分史、年金、病気、長寿、死、食事、盆栽、高倉健、寅さん、囲碁将棋、シルバー川柳…そして大活字本コーナーに書架は流れて行きます。私に該当する内容ばかり！「老後」というのはいつからなのでしょう？還暦？年金受給者？後期高齢者？

当館が積極的に地域資料の貸出しをするのはとてもありがたいと思っています。複本管理している資料に限定しているようですが、それでもかなり充実していて、「この本借りられるん

だ…」と助かる資料ばかり。

函館出身のロックバンド GLAY の聖地巡礼をしたい旅行者が多く、その問い合わせもあるそうです。ちなみにメンバーはデビュー前、東京で某印刷会社に勤務していたのはファンなら知っていますよね。当館が GLAY 関連の資料をどこまでコレクションにしているのか確認してみたいです。

今回初めて函館公園の中にある旧函館図書館を訪問しました。

市電五稜郭駅から谷地頭(やちがしら)行き終点の1つ手前の青柳町で下車すると、徒歩 10 分ほどで函館公園に到着。函館博物館、「こどものくに」という素朴な遊園地など憩いの場として市民に親しまれています。鹿や山羊なども飼育されています。

旧函館図書館は 1928 年に開館。現在の中央図書館が 2005 年に開館する直前まで開館していました。現在は建物が残るだけで内部見学はできません。趣のある素敵な建物なので何かに活用して欲しいものです。現在の中央図書館とはかなり離れているので、市民は移転に対して反対や困惑などなかったのかなと思います。

公園近くにある青柳中学校がステーションとなって移動図書館「ともしび号」が月2回巡回にきています。

2004 年、旧函館市・戸井町・恵山町・榎法華(とどほっけ)村・南茅部町が合併し、新函館市が誕生します。いわゆる平成の大合併によって旧函館市から東側の町村すべて函館市になりました。函館の図書館は 2004、5 年で大改革をしたこととなります。

大合併から 20 年以上が経過し、現在4つの町村の図書施設はどうなっているのでしょうか？

次回のコラムでは訪問レポートを書こうと思います。施設は今どうなっているのか？どのような町並みなのか駆け足ですが、コラムではあまり書かないのですが、普段どんな旅をしているのかも少し綴ってみます。お楽しみに。

2025 年 6 月訪問

加藤 重男